

研究内容

1 教育課程編成表の比較検討

- (1) 愛知県内の教育課程編成表を収集した。
- (2) 教育課程編成表の中における理科について、他教科の単位数との関連等を検討した。
- (3) 各校の大学進学実績等との関連で、調査校を4分類した。理科教育課程編成表について、理科の単位数、生物・の単位数について、4分類に従い比較検討した。

2 理科指導計画の検討

理科、特に生物の年間指導計画、シラバスを収集し、生物に関する指導計画を検討した。

研究成果

まだ報告できるような研究成果は、殆どないが、理科教育課程編成表の比較検討の一例を以下に示す。

理科教育課程編成表の比較検討

1 調査目的

生物の学力向上のために、効果的な1週間当たりの授業時間数について研究する。

2 調査対象及び分類

愛知県内のある地域の20校を対象とした。

対象の高等学校を以下の分類に分け、分類ごと、学年ごとの生物及び生物の単位数を比較した。ただし、教育課程については、平成17年度入学者のものを検討の対象とした。

- 分類
- ア：およそ国公立大学合格者数50名以上の高校（伝統校の進学校）
 - イ：国公立大学合格者数20名以上の高校（新設校）
 - ウ：国公立大学合格者数20名未満の普通科高校
 - エ：専門学科・総合学科

3 調査結果

ア：国公立大学合格者数50名以上の高校

例 生物と生物 文型3～4+3 理型4+3～4（2年+3年で示す。以下同様）
生物及び生物の合計時間数は文型で6～7時間、理型で7～8時間であった。

イ：国公立大学合格者数20名以上の高校

例 生物と生物 文型4～6+2～3 理型3+4

目的意識の強い教育課程を採用している。例えば、文型では生物を履修せず、生物の履修にあてるなど、よりセンター対策に重点を置いた教育課程になっている。

ウ：国公立大学合格者数20名未満の普通科高校

例 生物と生物 文型3+0～3 理型3+0～4

職業教育型、スタンダード型、アカデミック文型、アカデミック理型に分かれる。

職業教育型とスタンダード型は生物のみ履修、アカデミック文型は生物も履修するなど学力差をうかがわせる教育課程となっている。また、国公立合格者の少ない学校では、生物が選択科目となっている。

エ：専門学科・総合学科

専門学科：理科総合A及びBが1・2年次に各2時間、生物の履修はない。

総合学科：必修は理科総合Aのみ、生物は選択履修となっている。

4 まとめと考察

区分ごとに授業時間数をまとめた。傾向としては、国公立進学者が多い高校で、生物のみでなく生物も履修させていること、また、授業時間数についても多くの時間を確保していることがわかった。授業時間数が文型で6～7時間、理型で7～8時間確保できればある程度の学力を保障することができると思われる。専門学科・総合学科では、普通教科の授業時間数は必要最低限となっているといえそうで、生物のみの履修であったり、生物も開講されていない学校もあった。以上のように、各学校の置かれた状況により、生物の授業時間数は大きく異なっていることがわかった。全県を対象に授業時間数について検討しようとしたが、残念ながら、十分な資料を集めることができなかった。今後の課題として、本調査を一層深めること、さらに、生物の授業がどの程度実体をともなったものとなっているかについて調査が必要と考えられる。また、学力の多様な生徒への対応として、類型の多様化や科目間選択の拡大等、生徒の特性を考慮した教育課程の編成状況についても検討・調査を行っていきたい。